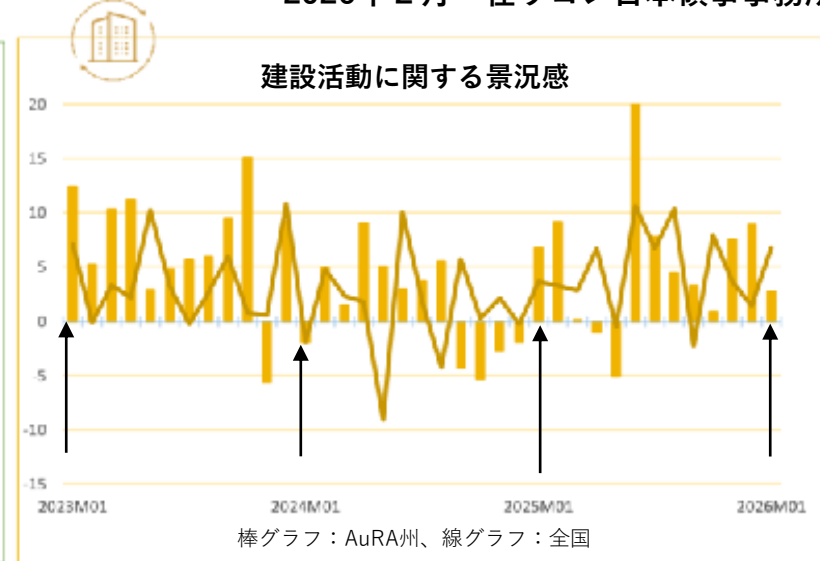
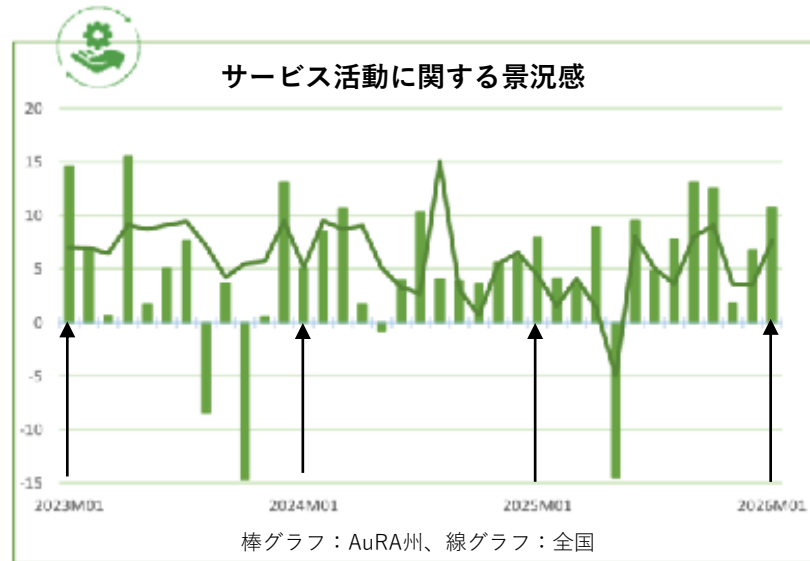
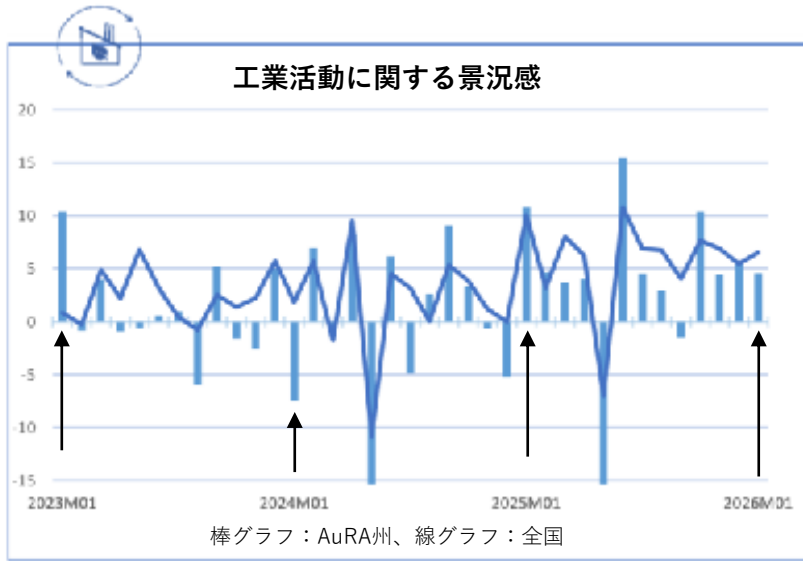


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2026年1月）

2026年2月 在リヨン日本領事事務所



ポイント

- 1月のAuRA州における景況感は、年末休業後、工業部門とサービス部門で活況を呈した一方、建設部門では緩やかな伸長となった。
- 1月の**工業部門**のAuRA州の景況感は全国レベルよりも伸びは緩やかで、業種によってその伸び大きく異なっている。生産稼働率は引き続き回復基調にある。原材料価格は上昇したが、その上昇分は販売価格に部分的にしか転嫁されなかった。雇用はほとんど変化なし。受注残は減少しており、企業経営者からは不十分であると判断されている。今後数週間、せいぜい現在の活動水準が維持されるとの見通しである。
- **サービス部門**では、AuRA州の景況感は全国平均よりも好況だった。販売価格は上昇し、雇用もわずかに増加。需要は堅調であるにもかかわらず、専門家たちは慎重な姿勢を維持しており、2月も横ばいで推移すると予測している。
- **建設部門**では、昨年末に比べ、悪天候や選挙前の慎重な様子見ムードにより、AuRA州での伸びは鈍化した。基礎工事と内装工事の両方で受注が減少。このような状況下で、専門家は見通しが不透明であるとみており、短期的には下落すると予測している。

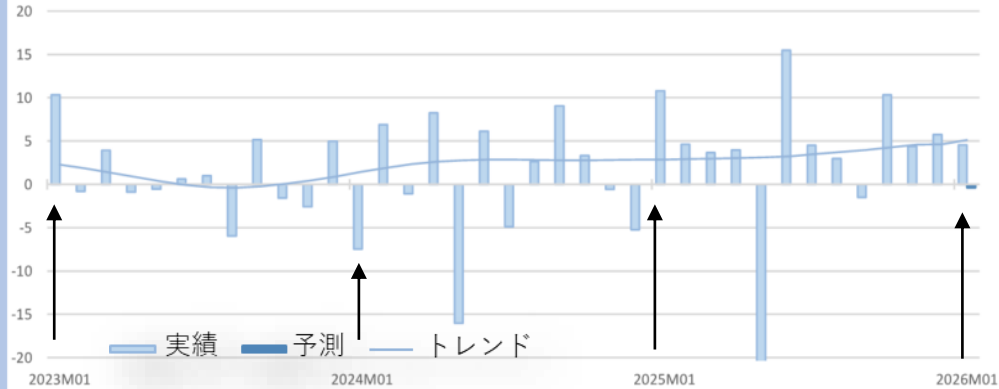
- ・ フランス銀行がAuRA州の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年1月28日～2月4日）。
- ・ 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。
（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2026年1月）

：実績、翌月の予測、トレンド



工業活動に関する景況感



1月の工業部門の景況感は、業種によって状況が大きく異なるものの、緩やかなペースで伸長した。年末の休業後、金属加工、化学セクターが大幅に回復した一方、製薬、ゴム・プラスチック製造、繊維・衣料・皮革、木材・紙・段ボールセクターは後退した。原材料価格は上昇したが、その上昇分は販売価格に部分的にしか転嫁されなかった。受注は低迷し、受注残は減少した。短期的な見通しは慎重で、せいぜい現在の水準が維持されるとみられている。



サービス活動に関する景況感



商業サービス業の景況感は、貨物道路輸送、IT、エンジニアリング・技術調査、法律・会計セクターにおける事業量の回復に牽引されて大きく伸びたが、これと対照的に宿泊業界では大幅に後退した。販売価格は大幅に上昇し、雇用はわずかに増加。需要は伸びているように思われるが、企業経営者は、今後も数週間は横ばいで推移すると予測している。



建設活動に関する景況感



1月の建設業部門の景況感は緩やかな伸びを記録した。内装工事は引き続きわずかながら増加したものの、基礎工事ではほぼ横ばい。一部の資材価格の高騰を背景に内装工事では緩やかな価格上昇が見られたが、基礎工事の見積価格は依然として低く抑えられている。建設業界全体で雇用が削減され、特に派遣労働の利用が減少した。基礎工事と内装工事の両方で受注が減少。こうした状況下で、専門家たちは今後の見通しは不透明と見ており、今後数週間は活動が減少すると予想している。